第１１回「ハートミーティング」意見交換の内容について

メンバー　まずは，簡単にグループについて説明させていただきます。

私たち「環境共生推進員」（※以下，推進員）は，各局・課，団体，地域，住民の皆さまと連携し，様々な環境問題に取り組み，市民の環境意識や行動をさらに高めていただくことを目指して活動しています。その中から，各々の情報を共有してさらに良い取組を進めていこうと願って集まった有志グループです。

私自身は，「1 人の 100 歩より，100 人の 1 歩」の気持ちで推進員となりました。

市長　現在，環境問題の最大の課題は，ごみ問題です。推進員の皆さんには，そのことを市民の皆さんに知っていただくために働きかけ，感じていただき，行動してもらえるよう，がんばってほしいと思います。

メンバー　本日は，市民の皆さまと接することの多い私たちが，市民の生の声を伝えたいと思い，このミーティングに参加しました。

メンバー　私は，全学区でのごみ排出量の多い時期や，少ない時期を把握できるよう表にまとめ，市民に説明ができるよう取り組みました。現在，子どもたちに環境を大切に思う心を広めたいとの想いから，児童館の館長さんとお話をし，毎月 16 日の DO YOU KYOTO？の日に一緒に環境学習会を開催できないか，また，小学生を対象としたエコバスツアーができないかと，各方面に積極的に働きかけをしています。

メンバー　子どもは素直に話を聞いて，その話を家に帰って，お父さんやお母さんに伝えてくれます。ですから，子どもの頃から環境について学習してもらうということは，とてもよいことだと思います。

市長　そうですね，昔は環境に対する教育自体が確立されてなかった。今，大きく前進していますが，更に地道な働きかけをしないといけませんね。

メンバー　私は，使用済みてんぷら油の回収や，エコバスツアーの推進などに取り組み，その後のフォローもしっかりできるよう，市民の皆さんと接しています。そのため業務は事務的な仕事から，人前で話すことなど幅広く，推

進員の仕事の大変さを実感しています。

以前，女性会の会長から，私たち推進員の活動を評価しているとおっしゃっていただきました。西京区の女性会からは，90 分の講演を依頼されたのですが，少し荷が重く感じましたので，出前トークを提案してみたところ，「それでは意味がない。私たちは，あなたたちにやってもらいたい。あなたでないと駄目だ。」との言葉をいただきました。私たちの活動の成果を実感し，とても嬉しく思いました。

メンバー　私は，まち美化事務所の環境拠点担当と協力して，京都市内の各学区において，地域ごみ減量推進会議の設立を推進しています。各行政区のふれあい祭りで市民の方と直接話す機会があるのですが，そこでは京都の市民の意識や地域力の高さに驚かされました。そして，環境行政では，市民の力が不可欠だと思うようになりました。

出町商店街では，生ごみを事業協会に引き取ってもらって，堆肥化し，ゴーヤのグリーンカーテンづくりをするなど，循環型社会に取り組んでいただいています。現在，220 学区中 131 学区で地域ごみ減量推進会議の活動に取り組んでいただいておりますが，今後は残り約 90 学区でも立ち上げを積極的に働きかけていきたいと思っています。

メンバー　循環型社会という話が出ましたが，地域で回収した生ごみをバイオガス化してエネルギーを回収し，生成された堆肥を，また地域に還して使用してもらうという，まさに循環させることを理想としています。堆肥はやはり臭いが強いのですが，この堆肥で植物が育つというのを実際に見てもらう教育も必要ではないかと思います。ただ，課題もあり，全ての生ごみを分別収集したら，かなりの量の堆肥が生成されることになり，結局はクリーンセンターへいくことになるのでは，勿体ないという声もあります。

メンバー　小学校では，木が多く，落ち葉の量も大量なので，回収が追いつかないという声もありますね。

市長　それは勿体ない。ここは，推進員さんに頑張っていただかないといけないところですね。

メンバー　大原地域と京北地域で行っていた生ごみ堆肥化装置を使用した「コミュニティ堆肥化実験」は，大原地域では 1 年間の実験を終了しましたが，京北地域では，現在も実験を継続していただいています。京北地域は自治会や住民の意識も高く，協力的であり，「地域力」を学ぶこともできます。

市長　大原地域には，実験を続けてほしいと話をしてもらっています。このような成功事例は，どんどん広め，共有していってほしいですね。

メンバー　現在，どの行政区でも抱えている問題なのですが，高齢化が進んできており，後継者がなく，または，後継者が続かないのです。それをどうするかが問題となっているのです。

市長　私の妻も，女性会や社会福祉で活動していますが，一番若いそうですよ（笑）。ご高齢の方のご活躍も嬉しいですが，若い方々の参画が重要ですね。京都の女性会は日本一だと思っています。意識の高い人が集まられ，学習し，活動されている。子どもたちの意識も高いですよ。先ほどの「1 人の 100 歩より 100 人の 1 歩」の話のとおりです。

ペットボトルのラベル剥がしなど，障害のある方が作業現場で一生懸命剥がしてくださっている。手間暇かかっている。一方で，ごみを捨てる時に関心のない人が多いですね。分別がいい加減です。これは，現実を知ってもらい，議論を重ねて啓発していかねばならない。特に，若い層の多いマンションだと，分別できていないところが多い。啓発だけでなく，仕組みづくりや，その仕組みに参画いただくようにアイデアを出していく必要がありますね。

メンバー　そうなんです。例えば，年末年始のビラ一枚にしても，町内会がないと行きわたらない。広報の仕方も考えていかないといけないと思います。

メンバー　啓発の段階でつまずいてしまいます。回覧などが，どの地域のどこで洩れているのかわからないのです。

メンバー　ひとつの案として，例えば左京区などは大学生などが多く引っ越してくるので，その際の住民票の手続きの時に，併せて啓発を行ってはどうかと考えています。

メンバー　山科区域では，若い親世代と子どもたちの意識の格差が顕著にあらわれた事例がありました。夏祭りの時のごみの分別で調査を行ったのですが，子供さんはきちんと分別に合ったごみ箱にごみを入れていくが，お父さん・お母さんは，全然違うごみ箱に捨てていく。30～40 代が多いですね。

メンバー　最近では，大学の学園祭の時に啓発させてもらいました。環境問題に取り組もうとする動きなど，学生さん自身も意識は高いと思います。ただ，その時は意識するけど，継続がないのも特徴ですね。

自治連を中心に，各種団体が一致団結して取り組まれている使用済みて

んぷら油の回収を，見に行ったことがあります。毎週会長さんが，立ち番をしているのを住民の皆さんが見て意識が高まり，他の学区からも持って来られていました。

市長　　1,400 箇所でてんぷら油の回収を行っているのは，京都だけです。自治会・社会福祉が機能しているのは，すばらしいと思います。学生さんも環境問題に取り組むようになってきている。各行政区で，こうやったら成功したという成功事例を持ち寄って会議を開き，広めていただきたい。市民の意識の変化を促して，意識改革・行動改革に繋げていく仕組みづくりが基本ですが，何らかのインセンティブも必要でしょう。皆さんで是非考えてください。

メンバー　例えば，ビラ配りなど，各地域で自治会にとらわれず，自分たちの学区は自分たちでと考えている方もいらっしゃるんですよ。

メンバー　私は本年度，町内会で組長をしているのですが，ビラなどは，町内会に入ってないところには配布されないのです。でも，私の判断で勝手に配布するわけにもいかず，難しいところです。

市長　　義務や権利を周知するような場合は，町内会に入ってないとビラが配布されないのは困りますね。

メンバー　最近の新興住宅地などでは，町内会がないところもありますね。

メンバー　商店街などでは，町内会に入ってもいいけど，役を持たないといけないと懸念される方もいらっしゃるようです。

市長　　加入の義務化はできないけれど，意義を示してみんなでコミュニティを大切にすることを条例化するなど，あらゆる努力が必要ですね。最近では，コンビニと宅配があれば生きていけるという勘違いをされている方がおられますね。一番大事なのは，家族や地域の絆だと思います。地域で，環境問題はもとより，子どもやお年寄りを見守り，住みよいまちづくりにも取り組んでいかないといけない。推進員さんには，是非，その取り組む仕組みを作ってほしいですね。持続可能な社会づくりには，環境問題が共通の課題です。まずは，推進員の皆さんがリーダーとなり，環境問題を意識づけ，取組につなげて，共通理解を深めて行動を起こしてもらうことが，人と人，地域の繋がりを作っていくという想いで活動してもらえたら，必ずよい結果に結びつくと思います。

　子育てとごみの減量は，まさしく地域共通の課題です。

メンバー　コミュニティ回収では，市から助成金が出ますが，市民の皆さまと接する中で，子育てに対するものに活用できる道が開けたらいいなと感じてい

ます。

メンバー　コミュニティ回収の助成金も，ばらまきだと言う声があります。

メンバー　地域力を高めるための支援なので，趣旨を理解し，利用してもらいたい。私は，できれば，用途も限定しない方がいいと考えます。

メンバー　私は，子供会で，環境というテーマで取り組み，そのためにお金を使っていただきたいと思います。

メンバー　実際に使用済みてんぷら油の回収を行っている現場を見に行くと，使用済みの汚い油を移し換える際に，こぼれて汚れたり，それをふき取ったりと，助成金を渡しているので完全なボランティアというわけではないですが，それに近い精神でやっていただいているのを感じます。そういうコミュニティにこそ，もっと助成金を出してあげたいと思います。

メンバー　私もそれは感じます。きちんと地域のために有効に使っていただけるのなら，助成金制度もよいことだと思います。

市長　そうやって，現場の声をあげていただくのは，いいことですね。地域のボランティア精神に基づく取組，前進してほしいですね。

メンバー　私は，事業系廃棄物の減量指導をしています。現場指導に行き，立ち入り調査を行っていますが，ISO を取得されてきちんと分別に取り組まれている企業と，できていない企業とに差があります。そういうできていない企業さんには，まずは紙類を普通ごみとして捨てるのではなく，古紙回収に出して下さいというところから始めています。企業は営利団体ですから，なるべくならお金をかけたくないという思いが強く，実際に，ごみは分別すればするほどお金がかかってきます。

また，聞きとりの中で，一般廃棄物と，缶・びん・ペットボトルなどの，その他のごみを分別して出されていても，収集業者が，一緒に持って行ってしまう所もあるようです。排出者である企業さんとしては，収集業者さんが，回収してからきちんと分けているのだろうとの認識ですが，実際それはあり得ない。別便だと別料金を取られるから，一回の収集で，全て持って行ってくれる方が，経費面ではいいとおっしゃいます。

市長　まず，民間業者が収集するマンションごみについて，6 月から分別していない場合は，クリーンセンターでの受け入れを拒否します。次に，一般事業所等についても，分別義務を徹底します。

業者によるごみの収集は安ければいいというものではない。分別すると経費が高くなるのは当然のことです。クリーンセンターの料金値上げは市の収入のためではありません。ごみの減量，リサイクルの促進のためです。

ユーザー獲得のために，分別義務を果たさず安く収集する業者が存在することはあってはなりません。多くの業者が努力されている中で，一部にそんな業者がいれば，将来許可取り消しも視野に入れなければならない。もっとも，有り難いことに，今，多くの収集業者の環境への取組も前進しております。共に努力したい。

メンバー　業者を責めるわけではなく，行政側と業者が協力し合い，ごみを出される企業へ業者側からも，ごみの出し方について指導していけたら，もっと良くなると思います。

メンバー　マンションなどでは，啓発を行っていますが，管理会社に聞くとやはり，業者の方で分けていると勘違いされています。きちんと分別して出していると回答されますが，では，週に何回取りに来られるかと聞くと「1 回です。その 1 回で全て持って行ってくれる」とおっしゃいます。

メンバー　業者まかせで，できていると思っている。

メンバー　分別自体も管理会社で，きちんとチェックしているわけではないところが多いようです。

市長　今，制度改革を行ってもらっていますが，本来，分別のできていないところは，業者が収集を拒否しないといけないですね。分別しないと持っていけないと言わなければいけない。

メンバー　「持っていけない」と言ってもよいのでしょうか。

メンバー　6 月から市のクリーンセンターに搬入される民間業者がごみを収集するマンションでは，透明袋の使用を義務化しますが，すでに啓発のチラシを配布し，管理会社への指導も行っています。しばらくの間は，黒袋等でも可能な期間を設けています。4 月からごみの分別も義務化しますが，ごみが見えることによって，分別意識が高まると期待しています。

市長　啓発による意識改革が一番大切ですね。それと同時に新たな仕組みづくりも必要です。例えが悪いかもしれませんが，命を守るシートベルトも，啓発だけでは守られなく，反則，罰金になるとなったら守られるようになりましたね。このままだと 20～30 年後には，人類は地球環境の悪化で，大変なことになる。命を守れなくなる。そこで，きちんと分別してくれない人のごみは集められませんと言うことも必要ですね。有料指定袋制は今，100%

守られています。

市立の総合支援学校で学校運営委員を作ってコミュニティスクールの取組を進めています。そこに視察に行ったとき，運営委員の一人に建設業界の方がいらっしゃって，「40 年前に建設業の世界でヘルメットをかぶっている人は少なく，職場は雑然としていた。20 年前は，ほとんどの人がヘルメットをかぶり，整理整頓されるようになった。安全で，作業効率も良くなった。そして，今では，ヘルメットなしでは働けないばかりか，環境問題を考え，廃材を分別するまでに変わりました。私は，20 年後には建設現場に障害のある人が一緒に働いている，そんな未来を夢見て働いています」とおっしゃっていました。感動しました。

環境に配慮すれば，コストは上がり，利便性は少し落ちる。しかし，それは環境との共生，また，人と人とが共に生きるという共生だと理解を求めていきたいですね。同時に頑張っている人のモチベーションが下がらないような仕組みづくり，インセンティブも，より必要かもしれません。

コペンハーゲンで世界市長サミットを開催し，79 名が出席しました。現在，世界の人口の 5 割が都市に住んでいます。20 年たてば 7 割と言われています。都市に住む人間が環境に配慮した生き方をすれば，地球環境は良くなると確認し，行動を提起しました。京都は環境モデル都市として，2020 年には CO2 排出量 25%削減をクリアしたいと思っています。

ごみ焼却施設は建て替えに 400 億かかると言われています。ごみを減らせば，現在 4 カ所あるクリーンセンターを 3 カ所に減らしていける。空いた土地も有効利用していける。そうなれば，市民の負担も減ります。ごみを減らして金持ちになりましょう。（笑）

メンバー　ごみを減らす，分別をして，きちんとリサイクルをし，本当にいらないものだけ焼却処分をして，焼却灰は森へ返す。それが理想ですね。

市長　現代では，「きゅうす」のある家庭が減っている。お茶はペットボトルを買うライフスタイルに。京都ならではの，文化としての環境問題も考えていかなければいけないですね。

メンバー　確かに，昔はお茶を「買う」という行為に抵抗がありましたが，今は普通に自動販売機で買っていますね。

市長　太陽光発電など，個人も行政も努力することによって家庭にも環境に優しいものを取り入れていきたいですね。

資料を見ていて思ったのですが，このエコバスツアーというのは，準備が大変なのですね。もっと気軽にできないものだろうか。何気なくほかし

ているごみがどうなっているのか，これは是非とも，市民全員の方に見ていただきたい。もっとバスの大きさや，台数とか考えられないですか。

メンバー　私たちも増やしたいのはやまやまですが，講習する部屋が狭く，めいっぱいでも 30 人ほどが限度ですし，委託しているバスの予定や，案内していただく人も業務の時間内にやっていただいているので，その方の都合などもあります。

市長　この取組はすばらしいし，私も現場を拝見し，改めて，正しいごみの分別の大切さを実感しました。是非ともひとりでも多くの市民の方たちに参加してもらいたいなぁ。

メンバー　特に子どもの反応はすごいですね。できる限り，機会を増やしていきたいと思っています。

メンバー　人員の問題もですが，抽選もなかなか当たらない人も多いようです。受付も３ヶ月前と早いこともあり，前日に「明日行こう」ということができません。そのあたりも検討していかなければいけない課題ですね。

市長　先ほど話していた地域ごみ減量推進会議が立ち上がっていない学区に対しては，いつまでに 100%を目指すことにしているのでしょう。

メンバー　いつまでという区切りはつけていませんが，できるだけ早急にと考えています。ただ，先ほどお話していたように，高齢化の問題もあります。各行政区どうしのミーティングをもって，横のつながりを強化していきたいと思います。

市長　成功例を出し合って，どんどん広め，深めてほしい。

環境モデル都市・京都として全世界のモデルになるよう，志を高くもってがんばりましょう。課題も多く大きく，まだまだ暗中模索ですが，環境問題だけではなく，環境を切り口にして，まちづくり，子育て，ライフスタイルなどの改革に生かしていきたい。なによりも現場の意見を尊重しながら，やっていきたいと思います。

本日は，現場に根差した貴重な意見を有難う。引き続き，頑張ってください。

以上

参加者の声から・・・

・とても緊張しましたが，よい経験をさせていただきました。今後も，現場で活動する職員の生の声を聞いていただきたいと思いました。

・各事務所などでの取組の成功事例を全員が共有し，環境行政をもっと活性化させてほしいとの要望をいただき，私たち環境共生推進員に対する市長からの期待を感じました。

・市長が環境に関して熱意を持って市政に取り組み，改革していく意思を強く持っていらっしゃることを，肌でしっかり感じ取りました。それらは，私たちの業務の後ろ盾になり，困難な局面に遭遇したとしても，迷いなく推し進めていける自信につながりました。

・話題が尽きず，予定時間をオーバーするミーティングになりましたが，とても短く感じました。